本資料は（一財）社会変革推進財団との業務委託契約に基づき、SIMIの責任において制作されました。原著の著作権は当該資料を作成した作者にあり、日本語化された資料の著作権は（一財）社会変革推進財団及び（一財）社会的インパクト・マネジメント・イニチアチブにあります。
(https://simi.or.jp/grc/the-state-of-impact-measurement-and-management-practice/)

THE STATE OF IMPACT MEASUREMENT AND MANAGEMENT PRACTICE

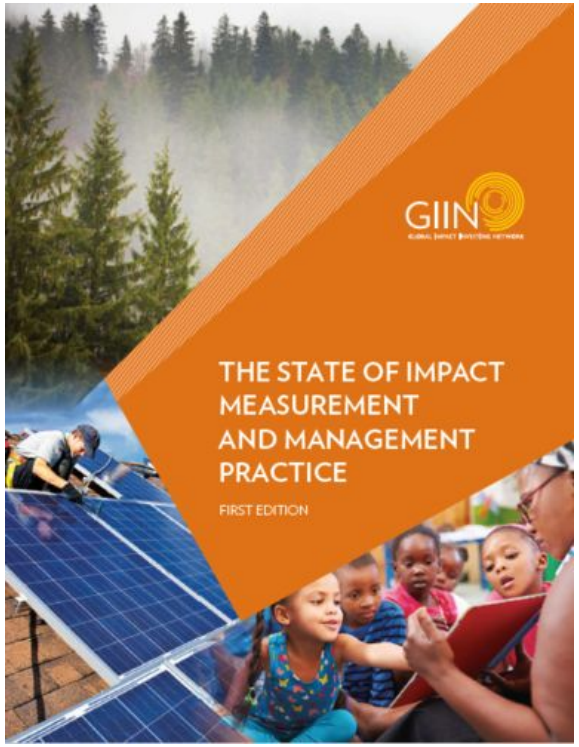
SECOND EDITION

January 2020

Global Impact Investing Network

都澤亜里沙　抄訳・まとめ

The State of Impact Measurement and Management Practiceの概要



Global Impact Investing Network (2017)

第1版

2017年12月発行

- 169のインパクト投資家による回答
- データ収集期間：2017年6月から8月

Global Impact Investing Network (2020)

第2版

2020年1月発行

- 278のインパクト投資家による回答
- データ収集期間：2019年7月から9月

Executive Summary

Key findings

1. インパクト投資家は多様なインパクト目標を追求しているが、インパクトの結果を測定し、管理することの重要性については、誰もが同意している。
2. 投資家が、インパクト測定・マネジメント（IMM）に対するコンセンサスを得ることから投資プロセス内でのIMMの統合を強化することへと移行するにつれ、市場全体でのIMMの実践はますます洗練されてきている。
3. 市場が成長し成熟するにつれ、インパクト投資家は、インパクト・パフォーマンスに対する知見を求めるようになってきている。
4. IMMにはそれなりのコストがかかるが、経済的リターンも生み出している。

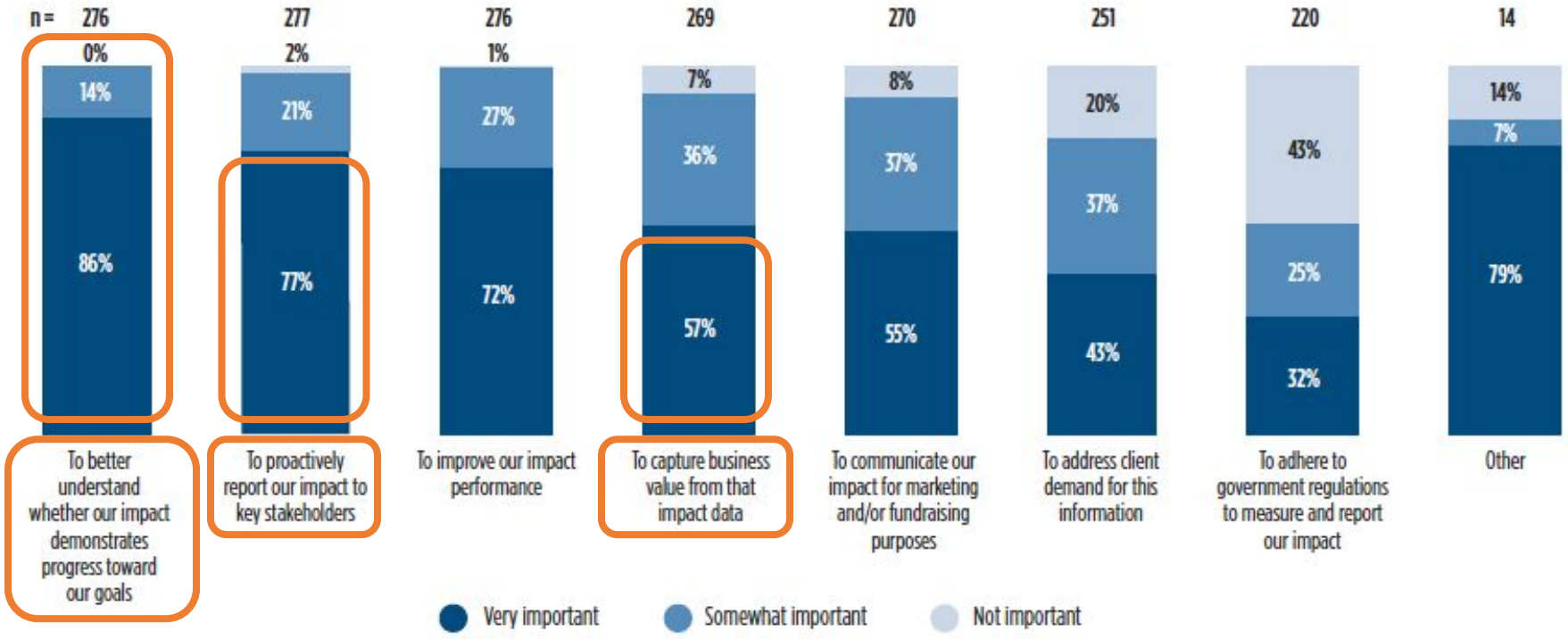
Contents

1. IMMを行う理由
2. 実践者から見たIMMのこれまでの進化
3. 実践者から見たこれからの課題
4. 組織内でのIMMの実践における課題の重要さ
5. IMMの現状
   a) IMMを行うモチベーション
   b) 市場の展望
   c) 測定とインパクト・マネジメント
   d) IMMのためのキャパシティ
   e) パフォーマンスの説明責任

1. IMM を行う理由

Figure 13: Reasons for measuring and managing impact　インパクト測定・マネジメント（IMM）を行う理由

Number of respondents shown above each answer option. Those respondents who chose 'not sure/not applicable' have not been included.



Note: 'Other' motivations include to adhere to certification schemes, to demonstrate the value of a dual mission, to gather data on impact progress, and to promote learning and awareness.

Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

- インパクトが目標に向かって進んでいるかどうかをよりよく理解することが「とても重要(86%) 」もしくは「ある程度重要(14%)」であると考えているためインパクトの測定および管理をする投資家が100%。
- 主要なステークホルダーにインパクトを積極的に報告することが「非常に重要」であると考えているから (77%)
- 結果として得られるデータが投資家にとって「非常に重要」なビジネス価値を持つから(57%)

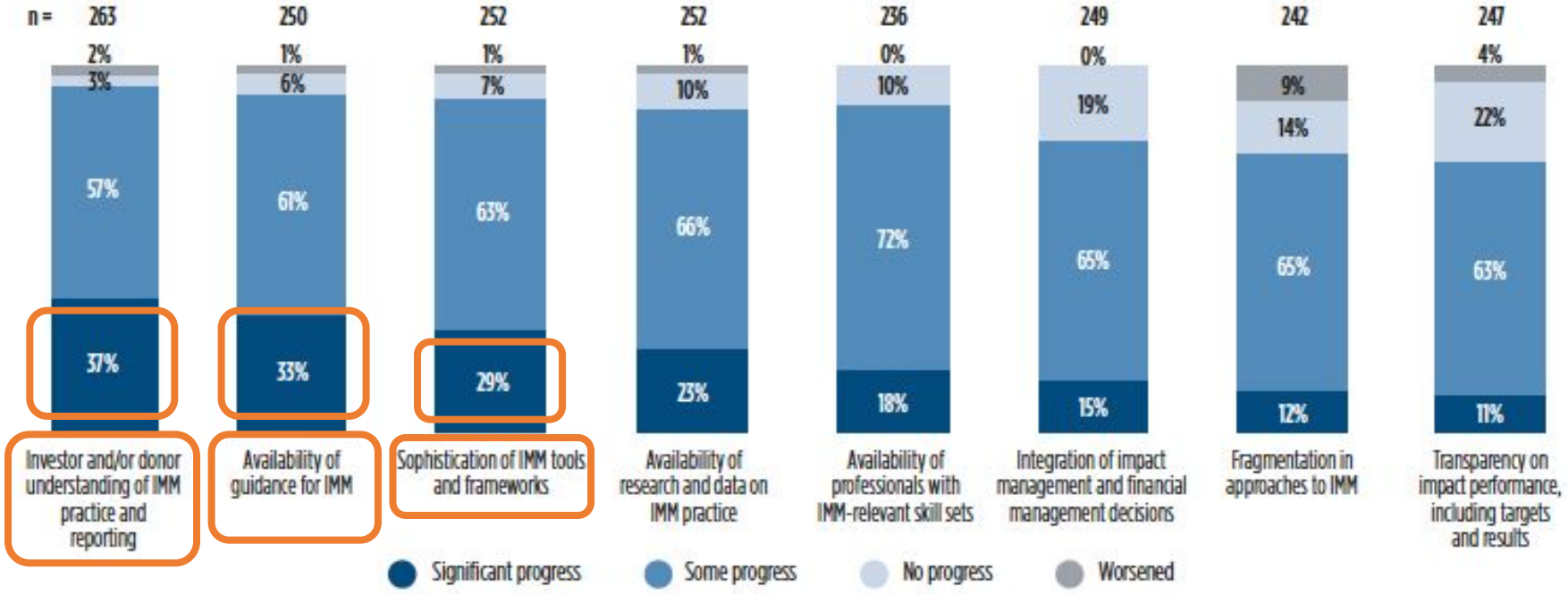
P25: Reasons for Measuring and Managing Impact

2. 実践者から見たIMMのこれまでの進化

業界の進化に伴い、投資家は現在、主にインパクトデータの収集、集計、比較に関連した新たな課題に直面している。

Figure 14: Progress in IMM practice over the last three years　過去3年のIMM実務の進歩

Number of respondents shown above each answer option. Those respondents who chose 'not sure/not applicable' have not been included.



Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

- 「IMMの実践と報告に対する投資家やドナーの理解」(37%)と「IMMのためのガイダンスの存在」(33%)と「IMMのツールとフレームワークの高度化」(29%) に大きな進展があったと投資家は感じている。

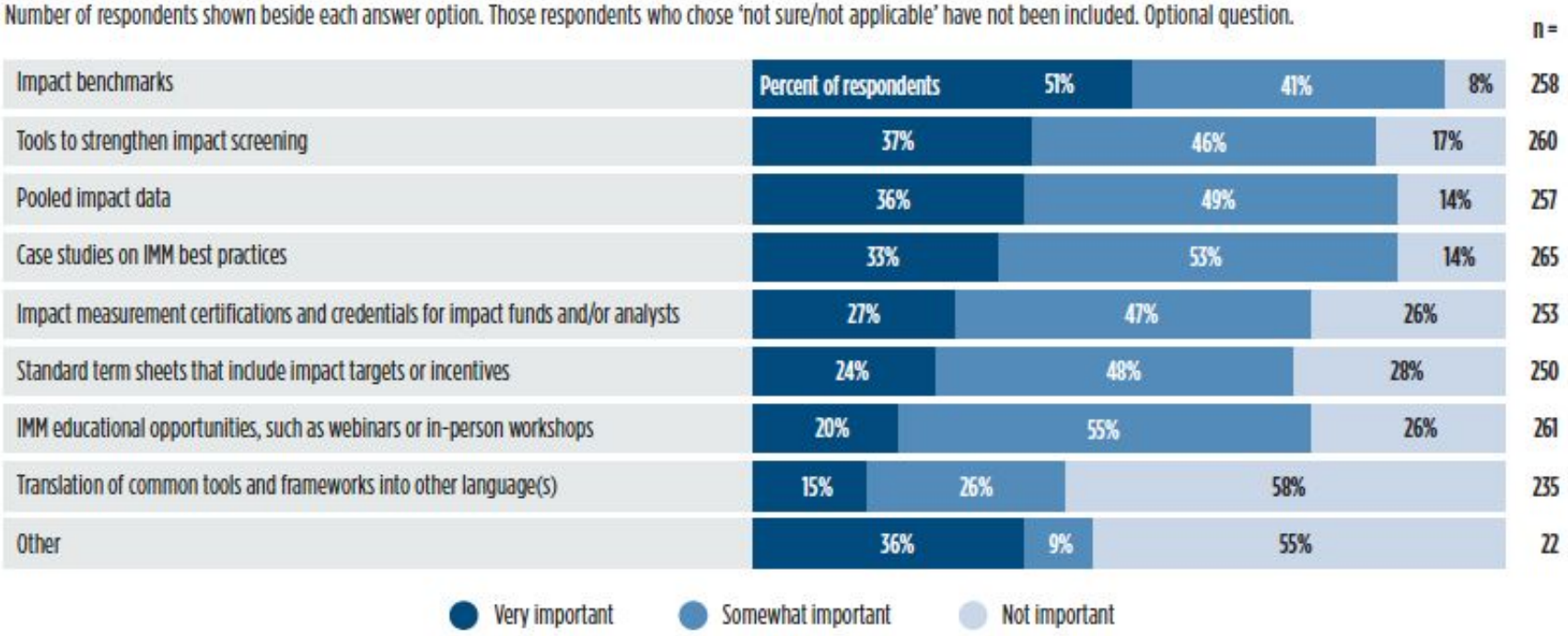
P26: Progress in IMM Practice

3. 実践者から見たこれからの課題

市場が成長し成熟するにつれ、インパクト投資家は、インパクト・パフォーマンスに対する知見を求めるようになってきている。

Figure iii: Importance of resources to advancing the practice of IMM

Number of respondents shown beside each answer option. Those respondents who chose 'not sure/not applicable' have not been included. Optional question.



Note: 'Other' includes an assortment of tools and ideas, such as government legislation to mandate standardized IMM frameworks and reporting; use of technology to enhance data analytics and drive decision-making; less complexity in the IMM industry; increased capital and human resources, including funding opportunities; and case studies specifically on setting and managing impact targets, including negative impact.

Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

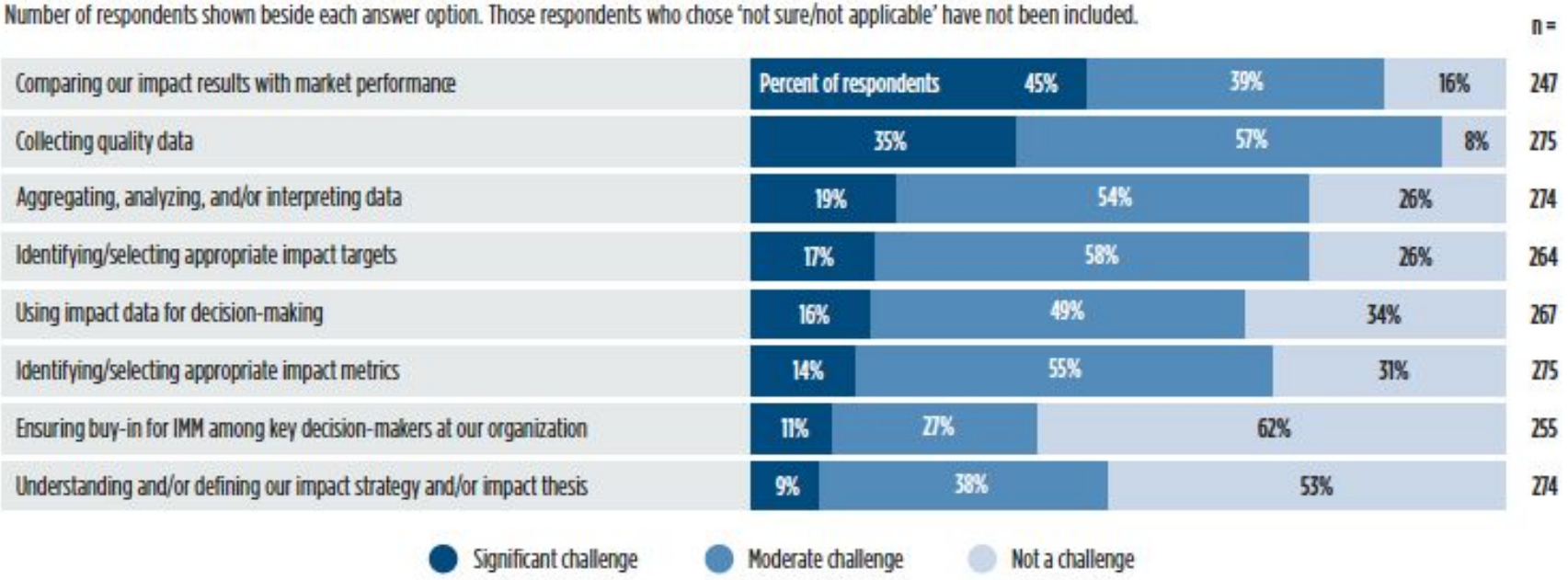
- 市場が直面している課題
  - インパクト・パフォーマンスの透明性の欠如（89%）
- 組織レベルで直面している課題
  - インパクトの結果を市場のパフォーマンスと比較することができないこと(84%)
  - 質の高いデータの収集(92%)
  - データの集計、分析、解釈(74%)
- 投資家は、IMMの実践を強化するため、インパクト・パフォーマンスに関する市場全体の洞察を示すリソースを求めている。中でも特に以下の需要が高い。
  - インパクト・ベンチマーク(92%が「非常に重要」または「やや重要」と回答、図ii)
  - 集積されたインパクト・データ(86%)
  - IMMのベストプラクティスに関するケーススタディ(86%)
  - インパクト・スクリーニングを強化するためのツール(83%)

4. 組織内でのIMMの実践における課題の重要さ

業界の焦点が、IMMの理解からベストプラクティスの実施に移ってきている。これは過去数年間のIMM実践の進展を反映していると考えられる。

Figure 17: Severity of organizations' challenges in IMM practice

Number of respondents shown beside each answer option. Those respondents who chose 'not sure/not applicable' have not been included.



Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

- 課題は主にインパクト測定
  - インパクトデータの収集、比較、利用に関連。
- 組織内の重要な課題
  - インパクトの結果を市場のパフォーマンスと比較すること(45%)
  - 質の高いデータの収集(35%)
  - データの集計、分析、解釈(19%)
- 対照的に、回答者は戦略的な問題はそれほど難しくないと考えている
  - インパクト戦略やインパクトテーマの理解と定義 (9%のみ)。
  - 主要な意思決定者の間でIMMの合意を確保すること(11%のみ)
  - 3分の2近くは、これは全く課題ではないと回答

P28: Severity of Challenges in IMM Practice within Organizations

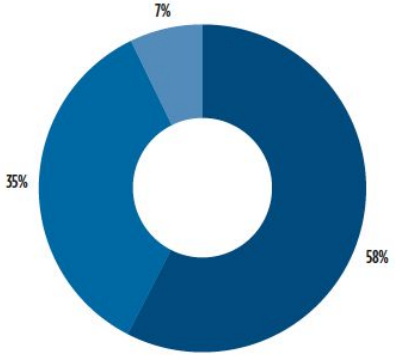
IMMを行うモチベーション

主なインパクト目標(P20)

- 環境及び社会 (58%)
- 社会 (35%)
- 環境 (7%)

プライベート・エクイティ投資家の 38%に対し、プライベート・デット投資家の半数以上（ 57%）が社会的な目的のみを目標としている。また、両グループとも環境的な目的のみを目標としている割合は比較的少ないが、プライベート・エクイティ投資家の環境的な目的のみを目標としている割合は、プライベート・デット投資家の 3倍以上（それぞれ 11%対3%）。

Figure 6: Primary impact objectives
n = 278

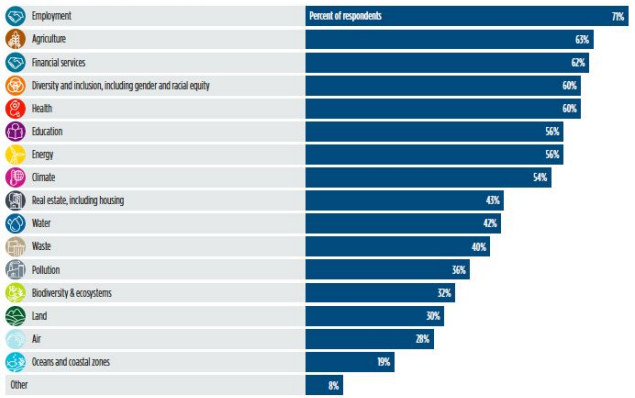


Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second E

対象となるインパクトカテゴリー

- 雇用の創出 (71%)
- 農業や金融サービス (63%, 62%)
  健康 (62%)
- 教育 (56%)
- エネルギー (56%)
- 気候問題への取り組み (54%)

Figure 11: Target impact categories
n = 278; respondents could target multiple impact categories.

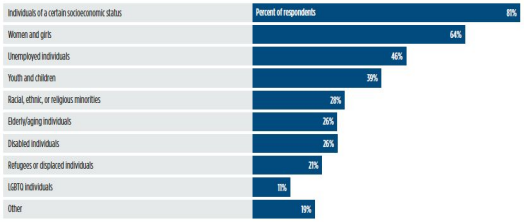


Note: These impact categories are aligned to IRIS+.[4] 'Other' impact categories include telecommunications, logistics, human rights and immigration, arts & culture, government effectiveness, urban mobility, forestry, technology & ICT, fisheries, SME financing, disaster relief, and broader SDG alignment.
Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

対象となるステークホルダー

- 特定の社会経済的地位にある個人(81%)
- 女性や少女(64%)
- 失業者(46%)

Figure 7: Target stakeholder groups
n = 234; optional question. Respondents could target multiple stakeholder groups.



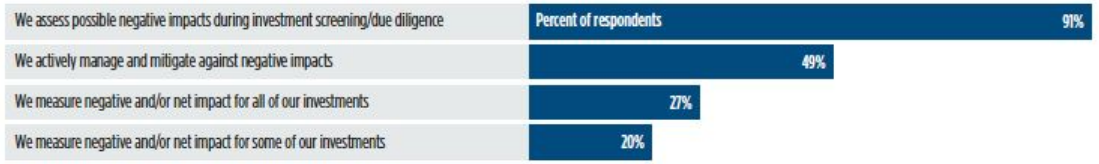
Note: 'Other' includes veterans, rural populations, small and medium-sized enterprises, people recovering from addiction, underbanked individuals, municipalities, farmland, nonprofits, charities and co-operatives, individuals lacking access to energy, least-developed countries, refugees, formerly incarcerated people, and smallholder farmers.
Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

成熟市場（DM）および新興市場（ EM)に投資する投資家の大多数は、一定の社会経済的地位にある個人を対象としている。DMを中心とした投資家の半数強（ 55%）、EMを中心とした投資家の4分の3近く（72%）が女性や少女を対象としている。さらに、 DM関連投資家の中では、人種的、民族的、宗教的マイノリティや難民などの不利な立場にあるグループに影響を与えることを目的とした投資家の割合がかなり高くなっている。 DM重視の投資家の 20%はLGBTQ（性的少数者）を対象としているが、 EM重視の投資家ではわずか 2%。

投資の負のインパクトを考慮した会計(P24)

- 少なくともある程度の頻度でネガティブインパクトを測定している投資家が多い (90%)
- 負のインパクトを評価している投資家のほぼ全員が、投資のスクリーニングやデューデリジェンスの際に評価している (91%)
- 負のインパクトを測定している投資家の約半数が、負のインパクトを積極的に管理し、軽減している（49%）。

Figure 12: Methods of accounting for negative impact
n = 251; excludes 27 respondents who do not account for negative impact. Respondents could select multiple methods.



Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

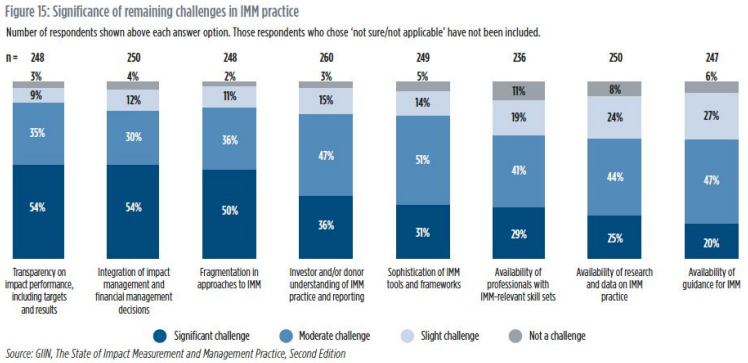
P20: Motivations for impact measurement and management

市場の展望

IMMの実践に残された課題(P26)

- IMMに残された2つの大きな課題として、「目標と結果を含むインパクト・パフォーマンスの透明性」と「インパクト・マネジメントと意思決定の統合」を挙げている (54%)。

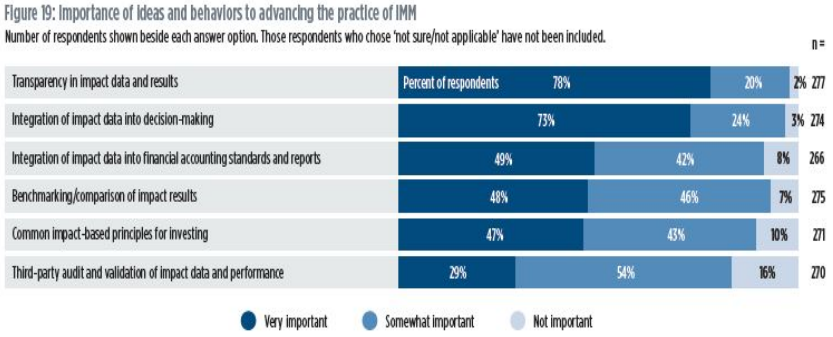
- 市場が直面しているもう一つの重要な課題は、「IMMに対するアプローチが断片化していること」(50%がこの課題を「重要」と回答)



IMMの実践を進めるためのアイデアや行動(P31)

- 最も重要な考え方や行動として「インパクトデータと結果の透明性(78%)」を挙げ、次いで「インパクトデータの意思決定への統合(73%) 」を挙げている。

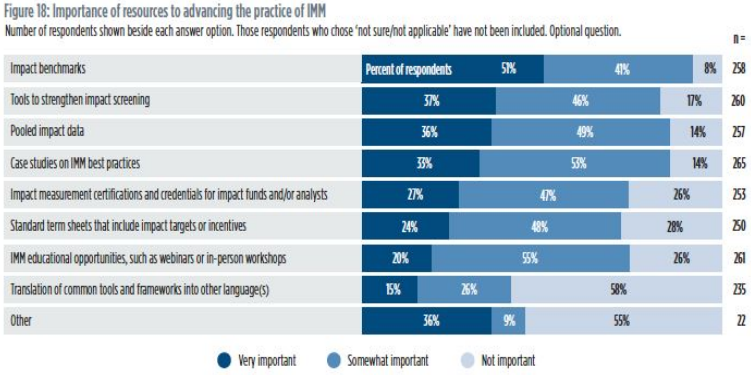
- 「財務会計基準や報告書へのインパクトデータの統合」(49%)、「インパクト結果のベンチマーキング／比較」(48%)、「投資のためのインパクトベースの共通原則」(47%)を非常に重要としている。



IMMの実践を強化するためのリソースの重要性(P29)

IMMの実践を進める上で重要なリソース

- インパクトベンチマーク (51%)
- インパクトスクリーニングを強化するためのツール (37%)
- 集積されたインパクトデータ (36%)
- IMMのベストプラクティスに関するケーススタディ (33%)



IMMのガイダンス

インパクト投資家が直面する共通の課題として、IMMの実施方法に関する共通の理解がないことが挙げられる。この質問に対する回答者の4人に1人以上が、インパクトの結果を比較できるようにするためには、測定基準の標準化、インパクト・ベンチマーク、データの集積、またはこれらの組み合わせについて、さらなる支援とガイダンスが必要だと回答。

インパクトを測定するためには指標が必要だが、報告されるデータは多様で、比較が難しい点が指摘されている。この課題の背景には、インパクト・パフォーマンスの結果を集約して比較し、インパクト分析を投資判断に組み込もうとする動きがある。

測定とインパクト管理

Impact Target (P33)

- インパクト目標を設定している回答者は、定量的ターゲット(64%)、定性的ターゲット(52%)を設定しており、39%は両方を設定している。
- インパクトターゲットを設定している投資家の割合は、2017年以降、61%から79%に増加。
- インパクト目標設定はファンドレベル(65%)、ファンドレベルと投資レベルの両方(45%)、セクターまたはテーマレベルと投資レベルの両方(36%)で設定している。
- プライベートデット投資家は、プライベートエクイティ投資家と比較して、投資家の目的に沿って目標を設定する割合が約2倍（57%対29%）。
- 投資期間中、必ずしも固定されているわけではなく、回答者の88%が目標を修正している。

Impact Measurement (P37)

Tools and Frameworks

- ほとんどの投資家は、IMMの実践において複数のシステムやフレームワークを使用しており、平均すると3つのシステムやフレームワークを使用している。
  - 国連持続可能な開発目標（SDGs）(72%)
  - Impact Management Projectの「5つのインパクト基本要素」(33%)
- データを標準化して比較するためにフレームワークを使用している。

Impact Measurement (P35)

Impact Metrics

- 投資家(91%) 、投資先または投資先のファンド(31%)、ファンドへの投資家(21%)%がインパクト指標を選択していると回答しており、目標と指標の両方の設定において、ステークホルダーが何らかの影響力を持っている。
- 第三者機関のコンサルタントも、目標設定と同様に、指標設定においても重要な役割を果たしており、10%は、第三者のコンサルタントが影響評価指標を選定している。
- インパクトメトリクスを選択する際に最も重要な基準として、信頼性と実用性が上位2つに挙げられている。その他の重要な要因としては、標準化が挙げられており、IMMの実務をより標準化したいという業界全体の関心を表している。

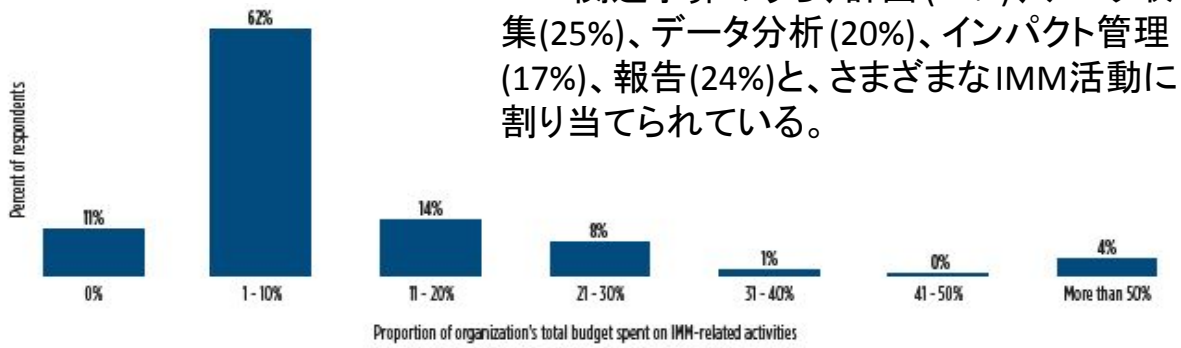
Impact management (P42)

- インパクト投資家は、通常、投資プロセスの複数の段階でインパクトデータを活用している。
  - デューデリジェンス (81%)
  - 投資スクリーニング (77%)
  - 投資を通じて取り組むべき社会的・環境的ニーズの特定 (75%)
  - 包括的なポートフォリオ戦略など、より広範な投資戦略にも反映 (66%)
- 主要な活動や意思決定を行うためのインパクトデータの利用
  - インパクトの結果をステークホルダーに伝えるため (89%)
  - インパクトパフォーマンスを評価するため (87%)
  - 測定基準 (69%) やターゲット (65%) の特定や改善
  - データ収集プロセス全体の改善 (62%)
  - 長期的なインパクト分析の実施能力の向上 (58%)

インパクト測定と管理のためのキャパシティ

IMMの予算配分 (P45)

- 総予算の1%から10%をIMMに費やしている(62%)
- IMM関連予算のうち、計画 (14%)、データ収集(25%)、データ分析 (20%)、インパクト管理 (17%)、報告(24%)と、さまざまなIMM活動に割り当てられている。



Source: GIIN, The State of Impact Measurement and Management Practice, Second Edition

IMMの外部コンサルタントの利用 (P48)

IMMのために外部のコンサルタントを利用している投資家:

- 詳細なインパクト評価を実施するために外部の IMMコンサルタントを雇っている割合が最も高い (51%)
- 結果を検証するため (34%)
- 実施だけでなく、結果の検証のため (20%)
- 日常的な収集、分析、または報告をサポートするため (32%)

インパクト戦略、ロジックモデル、変化の理論を定義するためにコンサルタントを雇っている回答者は26%とやや少なく、インパクトターゲットを開発するために雇っている回答者は14%となっており、**業界がインパクトを理解することから厳密に測定することへと進んでいる**ことを示唆している。

IMMへの人的資源の配分 (P46)

インパクト投資活動とIMMの関係についての解釈

- IMMはインパクト投資プロセスのあらゆる側面に完全に統合されており、IMMに割り当てられる人的資源を通常の投資活動から切り離すことはできないという解釈
- IMMを別個の活動と考え、それに応じて人的資源を割り当てるという解釈

IMMに割り当てられる人材は

- 組織の投資チーム全体で IMMの責任を統合 (68%)
- IMMの目的のために1人以上の専従スタッフを配置している (50%)
- 投資チームとIMM専門スタッフの両方が IMM活動を行っている (30%)

IMMの資金源 (P49)

IMMのキャパシティの資金源

- インパクト投資からの運用報酬、キャッシュフロー、または利益を利用(72%)
- 広範な投資活動からの運用報酬、キャッシュフロー、または利益を利用(24%)
- 一部をドナーからの資金提供 (22%)
- 投資先とのコストシェアを通じてIMMに資金を提供している (11%)

DM重視の投資家とEM重視の投資家

- IMMにドナーからの資金を利用 (DM 12%, EM 28%)
- 投資先とのコストシェアを通じてIMMに資金を提供 (DM 6%. EM 19%)

パフォーマンスの説明責任

インパクト達成のインセンティブ

- 投資家
  - インパクトを達成するために内発的に動機づけられている(76%)
  - インパクトの達成が従業員の評価の要因になっている(21%)
  - インパクトを達成するための明確なインセンティブを提供していない(40%)
- 投資先
  - 投資先がインパクトによって内発的に動機づけられている(57%)
  - インパクト目標を達成した場合にのみフォローの資金を提供 (24%)
  - ベースラインのインパクト目標が達成された場合にのみ、初期投資を提供 (22%)

インパクトパフォーマンスの報告(P53)

- プライベート・デット投資家の60%以上がインパクト報告を作成し公表しているのに対し、プライベート・エクイティ投資家は35%。
- インパクトにとらわれない投資を行っているインパクト投資家と比較すると、インパクト投資のみを行っている投資家の方が、一般向けにインパクトレポートを作成し(36%対56%)、標準的な財務報告書にインパクトパフォーマンスの結果を記載している割合が大幅に高い(33%対48%)。

インパクトターゲットの公式文書への記載(P52)

- 何らかの形でインパクトターゲットを公式に(法的根拠を持つ形で)成文化している(64%)
- 株主間契約でインパクトターゲットを成文(19%)
- プライベート・エクイティ投資家はプライベートデット投資家よりも成文化している割合が高い(32%対9%)。

外部への説明責任の手段(P54)

- 説明責任を負っている投資家は、そのために様々な外部者を利用している。
  - これらの回答者は、外部監査 (54%)、AERIS、GIIRS、SPI4などの様々な評価システムや指標を利用(42%)などによってインパクト・パフォーマンスの結果について説明責任を果たしている。
- 第三者による監査をしていない回答者のうち、
  - 11%が近い将来に監査を受ける予定 (11%)
  - 監査を受ける予定のない回答者は、外部監査からは十分なビジネス価値が得られない (31%)、外部監査はコストがかかりすぎる(26%)と考えている。

ご利用条件

本資料は一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(Social Impact Management Initiative: SIMI)(以下「当法人」といいます)が運営するSIMIグローバルリソースセンター(以下「本ウェブサイト」といいます)に掲載されているものです。

本ウェブサイトを利用される前に以下の利用条件をお読みいただき、これらの条件にご同意された場合のみご利用ください。本ウェブサイトをご利用されることにより、以下の条件にご同意されたものとみなします。

なお、以下の条件は、予告なしに変更されることがあります。本条件が変更された場合、変更後の利用条件に従っていただきます。あらかじめご了承ください。

1. 著作権について

本ウェブサイト上のすべてのコンテンツに関する著作権は、特段の表示のない限り当法人および当該資料の原著の作者に帰属しております。そのすべてまたは一部を、法律にて定められる私的使用等の範囲を超えて、無断で複製、転用、改変、公衆送信、販売などの行為を行うことはできません。

2. 免責事項

本ウェブサイトは、社会的インパクト・マネジメントに関連する海外の文献や資料を、日本語に訳しまとめたものを、著者及び出版元の許可を得て掲載しています。本ウェブサイトに掲載されているコンテンツは、あくまでも便宜的なものとして利用し、適宜、英語の原文を参照していただくよう、お願いいたします。

誤りのないようあらゆる努力をしておりますが、誤訳、あるいは、掲載されている情報の使用に起因して生じる結果に対して、当法人関係者及び当ウェブサイトは、一切の責任を負わないものといたします。

当法人は、予告なしに、本ウェブサイトの運営を中断または中止、掲載内容を修正、変更、削除する場合がありますが、それらによって生じるいかなる損害についても一切責任を負いません。また本ウェブサイトのご利用によりご使用者様または第三者のハードウェアおよびソフトウェア上に生じた事故、データの毀損・滅失等の損害について一切責任を負いません。

3. リンクについて

営利、非営利、イントラネットを問わず、本ウェブサイトへのリンクは自由ですただし、公序良俗に反するサイトなど、当社の信用、品位を損なうサイトからのリンクはお断りします。また事前事後にかかわらず、その他の理由によりリンクをお断りする場合もあります。

4. 資料の引用について

本ウェブサイト上に掲載された日本語まとめ、抄訳及び翻訳資料を引用する際には、出典の著作者名として「一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニチアチブ(SIMI)グローバルリソースセンター」及び当該資料の原著の著作者名を、併せて明記ください。なお、引用の範囲を超えると思われる場合は、当法人および当該資料の原著の著作権者に了解を得てください。